

# 「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

(モデル校名 兵庫県神戸市立魚崎小学校)

## ○学校の概要

神戸市立魚崎小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	なかよし学級	計	教員数
学級数	6	6	5	5	5	5	2	34	41
児童数	229	203	189	199	175	177	5	1177	

## ○平成15年度活動報告

### 1. 本校の課題

本校では、総合的な学習の時間について、環境・福祉・国際理解・情報・健康・成長・平和・魚崎（地域）の8領域を設け、それぞれに中学年・高学年別の内容と評価規準を設定している。年間計画の作成においては、各学年で児童の実態に合わせてこの8領域から選択して、評価規準に照らしながら時期や内容を決定している。従って、「この学年では必ずこの教材を扱う」というように決めて行っていない。だから、前年度の取り組みを踏襲するのではなく、その学年独自の学習展開が可能である。反面、学習内容について他の学年と重複または類似してしまうことがあり、学年間の話し合いを密にすることが課題であった。その中で、中学校や幼稚園との連携が必要であることも浮かび上がってきた。

また、地域の方々とのつながりを深めながら地域教材を開発していくことも課題であった。

### 2. 目標設定

- ・ 総合的な学習の時間の活動を通して、地域のくらしや良さを知り、ものづくりや働くことのすばらしさに気づくと共に、地域を支える人たちに出会い感謝したり自ら働きかけ支えようとしたりする心情を養う。
- ・ 幼・小・中が連携することにより、校種が変わっても地域での学びを継続できるようにする。
- ・ 各学年の学習活動を通して、「問題を見つける」「解決の仕方を見通す」「情報を収集し、まとめる」「学習の成果を表現し伝える」などの基本的な学習能力を高め、中学校での学習に生かせるようにする。

### 3. 本年度の取り組み

#### (1) 各学年の内容

##### ① 3・4年

地域の環境・自然・福祉などをテーマに学習を進めた。その中で、地域の方にゲストティーチャーとしてできるだけ数多く入っていただき、地域とのふれあいを深めることができた。さらに、地域社会にある課題に気づき、自分たちにできることについて考え、それを保護者や地域の方に発信することができた。

##### ② 5・6年

野菜の植え付けや収穫を体験すると共に、収穫した野菜を地域で販売する体験を行った。特に、販売体験では、たくさんの地域の方とふれあうことができた。

#### (2) 魚崎幼稚園・魚崎中学校との連携

##### ① 幼稚園年長児を1年生が招いて、小学校の様子について発表

##### ② 魚崎中「トライやるウィーク」小学校体験

##### ③ 総合的な学習の時間の発表の場を校外にも広く発信

・ 6年「キャベツを作って売ろう」

・ 5年「トマトを作って売ろう」

・ 4年「魚崎の環境を守るために私たちにできること」

・ 3年「人にやさしい町づくり」

#### (3) 一日授業参観

地域の方に授業を公開し、子どもたちの生活や学習の様子を見学していただいた。

#### (4) スクラムプラン「ほのぼの魚っ子まちづくり発表会」

魚崎地域の幼小中3校園のPTAの主催で実施された。本校からは、6年生の食農体験学習の成果を発表した。パワーポイントを採り入れ、分かりやすく伝えることができた。

#### (5) 小中合同学習会

小学校・中学校それぞれの代表がこれまでの学習の成果を発表した。その後、北俊夫先生（岐阜大学教育学部教授・前文部科学省教科調査官）から、先進例の紹介とこれから目指すべき学習についての指導講話をいただいた。子どもたちにも分かりやすく、丁寧なお話で、来年度に向けての示唆を与えていただいた。

#### (6) 本年度の成果と課題

小学校・中学校の交流の場を多くもつことができ、学習内容について共通理解することができた。そのために、本校の学習内容について見直し、修正ができたと思う。今後は、地域との連携をより深める方策を求め、魚崎の地域全体で魚崎（幼・小・中）の子どもを育てるためのより細かいカリキュラムのつめが必要であると思う。

### 4. 16年度の取り組み

各学年が決定する学習内容の中で、地域への見学や体験活動、地域の方とのふれあいの場を今年度以上に多く採り入れる。また、高学年では、中学生との交流を図れるような学習内容も考えていきたい。校内でも、学年間交流を図り、総合的な学習の縦のつながりや発展を明確にする。

総合的な学習の時間全体計画

神戸市立魚崎小学校

【学校教育目標】

人間性豊かな魚崎っ子の育成

【めざす子ども像】

共に生きる子・自ら鍛える子・主体的に学習する子・平和を愛する子

【研究主題】

自ら学び、共に生きようとする子どもをめざして  
～生き生きと自分を表現できる学習活動～

- 学習環境の整備活用
  - ・地域公園、学校ビオトープ、学習園、田、温室、地域地場産業、水環境センター、運河、商店街、各福祉施設等、地域防災施設、学校のIT・ユニバーサルデザイン施設
- 地域教育力の拡充
  - ・ゲストティチャー
  - ・甲南大学、武庫川女子大学との連携協力、
  - ・連合自治会、婦人会、老人会、甲南本通り商店会、消防団、NPO、地元企業、青年会やだんじり保存会等
- 情報発信
  - ・学校の校報、ホームページ、地域会合でのPR

● 中学年で目指す子ども像  
自分たちの地域における素材を起点として、体験などの関わりを多く持ちながら試行錯誤の追求を進め、自分たちからよりより生活を作り出そうとする子ども。

● 高学年で目指す子ども像  
自分や社会、自然との関わりへの関心から自分なりの課題を見つけ、活動や体験を通して解決への方向性を探ることで、自分を問い直したり、自分の置かれている状況に葛藤したりしながら、自分としての生き方や社会のあり方についての考えを作り出していく子ども。

《 学習で期待する学び 》

- ① 教科学習では学びきれない現実社会と諸問題の出会いをする学び
- ② 「社会・文化」との出会いを強める学び
- ③ 自分のあり方を見つめる学び
- ④ 子どもにとって「自分の生き方」につながる学び
- ⑤ 学び方を知る学び

- 教科・道徳・特活
- ・基礎、基本の定着
  - ・学力の保障
  - ・個に応じた指導
  - ・人権教育の推進

- 小・中モデル事業
- ・幼、小、中と連続した11年教育を進めるため、子ども、職員、PTAを含めた交流を進める。
  - ・幼、小と小、中の合同の学びの場作りを積極的に進める。
  - ・モデル事業のカリキュラムすり合わせを行い、研究授業により、幼児、児童、生徒の学び方の系統表を作成して、系統的な能力を育成する。

平成16年度総合的な学習の時間の目標

身近な問題から現実社会にある課題を見つけ出し、主体的・創造的に追求していこうとする態度と学び方を育成し、自分の生き方や社会のあり方について考えることができる。

魚崎小学校の「総合的な学習の時間」の領域

- ①横断的、総合的な課題  
〔環境・福祉・国際理解・情報・外国語〕
- ②児童の興味、関心に基づく課題  
〔健康・成長・平和・しごと〕
- ③地域や学校の特色に応じた課題  
〔魚崎〕

学年	本年度学習の主な領域と内容	学習のねらいや評価
3	③領域；魚崎のだんじりまつり	・地域に伝わる「だんじりまつり」について調べる活動を通して、地域の人々とふれあい、地域のいろいろな行事にかかわろうとする態度を養う。
4	①領域；水のゆくえ	・水環境センターを見学して、学校や家から出た汚れた水がどのような旅をしてきれいな水に生まれ変わるのかについて聞いたり調べたりして、わかったことをまとめ、報告できる態度を養う。
5	①領域；英語に挑戦！	・3学期5、6年一部専科制を取り入れて、外国語に親しむ機会を設定する。 ・主に英語を用い、言葉や文化について理解を深める。
6	①領域；英語でコミュニケーション！	・英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・聞いたり、話したりすることで相手の思いをわかったり、自分の思いを伝えたりする経験をする。

# 総合的な学習編

## 神戸市立魚崎小学校

### I. 本校の総合的な学習についての取り組みの経緯

本校では、平成11年度より子どもたちに「生きる力」の育成を目指した取り組みを実施してきた。本校で考える「生きる力」とは次の2点と考えてきた。

- ・自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力
- ・自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性とたくましく生きるための健康と体力

この「生きる力」の育成を実現するために、本校では研修テーマを下記のように設定し、魚崎小学校の子どもにあった取り組みを模索してきた。

#### 研修テーマ

「自ら学び、共に伸びようとする子をめざして」  
～ 生き生きと自分を表現できる学習活動 ～

本校では、先に示した研修テーマ、さらには「生きる力」の育成には総合的な学習の研修を積み上げていくことで迫っていくことが可能であると考え、平成11年度から魚崎プランづくりに取り組み、単元づくりを進めてきた。

### 1. 単元作りから見えてきたこと

平成13年度から14年度にわたっての2年間の取り組みについては、次のようになる。(詳細は平成13、14年度の研修のまとめ参照)

学年	平成13年度 総合的な学習のテーマ	平成14年度 総合的な学習のテーマ
3	「むかし」と「いま」 どちらがいいか	おとしよりから学ぼう
4	20世紀の魚崎を伝えよう	神戸の環境問題 目の不自由な方にとって暮らしやすい町 話してみよう・聞いてみよう・調べてみよう～英語にふれることで～
5	わが町の伝統産業「酒造り」	子供環境サミット2000
6	「LIFE」わたしたちの…	昔へ、タイムスリップ

#### ○3年生における取り組みから

平成13年度「むかしといまどちらがいいか」では、実物をみたり、火をおこす、七隣や洗濯板を使うなどの体験をしたりすることでおもしろさや楽しさ、大変さや洗濯板の仕組みを知ることが出来るということが見えてきた。

平成14年度「学校のまわりのしせつ」「しょうたいじょう作り」では、社会科や国語科の発展学習として取り組み、自分なりのテーマに沿った調べを進めていくという総合的な学習へとつなぐ学びの場を設定していった。

「おとしよりから学ぼう」では、見学やふれあいなどを通して自然とふれあうことができ、学習を進める中でサンライフ魚崎のお年寄りに敬老の日にはがきを出すなどのかわりもどんと深めていくことが出来る。そこでの学びを自分のものとして素直に受け止めることもできている。

#### ○4年生における取り組みから

平成13年度「20世紀の魚崎を伝えよう」では、身近な人やもの、出来事を通して自分たちで試行錯誤しながら調べを続け、テーマの解決を目指していく取り組みが進められた。

平成14年度「神戸の環境問題について」では、須磨水族館の人や生き物の保護に取り組む団体の方に話を聞いたり資料をいただいたりして自分たちの考えを作ってきた。

「目の不自由な方にとって暮らしやすい町について」では、目の不自由な方と出会い、点字の教科書を読んでいただいたり話を聞かせていただいたりして防災・福祉についてのビッグマップづくりをしてきた。学びを進めていく中で子どもたちが様々な人と交流することによさを強く感じている。

「話してみよう・聞いてみよう・調べてみよう～英語にふれることで～」では、積極的にふれあったり、話をしたりすることが出来るというよさを生かして外国人とのコミュニケーションを積極的にとっていけるような学びを進めていくことが出来た。体験を前面にして自分で試行錯誤する中で学習に興味・関心を高めていくという展開をすることが有効であった。

#### ○5年生における取り組みから

平成13年度「わが町の伝統産業 酒造り」では、パンフやビデオ、インターネット、見学、専門家の話、取材など様々な活動や体験を通して関心を深め、自分にとっての課題をはっきりと持って創意・工夫しながら問題を解決していく取り組みが出来た。

平成14年度「子供環境サミット2000」では、環境を守るために自分たちに出来ることを考え、その効果を5つの研究所に分かれて創意・工夫した調査・実験を通して調べ、自分の考えを明らかにしていくことが出来た。

### ○6年生における取り組みから

平成13年度「LIFE わたしたちの…」では、様々な資料から地球環境における問題点を取り上げながら自分たちの生活を見つめていくことで、自分としては何が出来るのかという自分としての方向性や結論を創意工夫する中で導き出して取り組みへとつなげていこうとする学びができた。

平成14年度「昔へ、タイムスリップ」では、社会科で学習した昔の生活を実際に体験することで、現在自分たちが直面している生活を見つめなおす場を持った。より便利な生活を目指してきた先人の努力や工夫、便利さ・快適さが生み出した現代社会の問題点などについても考えながら自分たちの生活を改善していくための提言を探っていくことが出来た。

## 2. 平成15年度の取り組み

平成14年度は、教科学習と総合的な学習における学びの関連を意識し、大切な車の両輪として二つの学習を大切に関わらせながら取り組んできた。

### ○3年生における取り組みから

社会科「魚崎たんけん」「むかしたんけん」を窓口発展していった学習を進め、NPOやデイサービスなど地域を素材としての学習を展開していった。学習と生活が結びつくことで、子どもたちの思考も連続し、成果も大きいとの成果があった。

### ○4年生における取り組みから

「ものにふれ、人にふれて環境問題・福祉」を考えようというテーマのもとに野生に生きることと動物園に生きることや障害のある人にとって困っていることなどを実際に体験したり、話を聞いたりして追究していった。教科からの発展的な取り組みであり、多くの事柄にふれることができた。集団としての高まりや個人の力の発揮と言う面で課題があるとのことである。

### ○5年生

外国から見た日本を取り上げ、正しい日本を伝えたいと願う子どもたちに、自分たちが伝える「日本らしさ」って何かと問いかけた。伝えるものを求めているいろいろ悩んだが、子どもたちは町の誇りである「だんじり」を伝えるものとして見つけ出した。「だんじり」は、東灘の町々にあり、どの町でも誇りとしている。しかし、外国に対する文化についても知らねばならないのではないかという疑問もあり、外国についての調べも進めたが、十分には時間を取れなかった。

### ○6年生

学校行事への主体的な取り組みと教科学習の充実させる取り組みとして総合的な学習を位置付け、「共に生きる」「私たちの卒業」に取り組んできた。アイマスクや車椅子の体験や障害がある方とのふれあいを通しながら共に生きるということについて考え、自分にできることは何かを探っていくことができた。また机上の学

習に止めず、実践に移していける学びへと導いていった。

平成15年度はこれらの実践を進めながら、本校としての総合的な学習における大きな枠組みを作ることができた。

学習指導要領における総合的な学習についての2つのねらいを受けて、魚崎小学校における学びとして期待するものを検討し、次の5つの学びとして取り上げることが出来たのである。

- 教科学習では学びきれない「現実社会の諸問題との出会い」をする学び
- 「社会・文化とのかかわり」を強める学び
- 自分のあり方を見つめる学び
- 子どもにとって[自分の生き方]につながる学び
- 学び方を知る学び

この5つの学びから本校としての総合的な学習の目標が位置付けられると考えている。平成15年度には、次のような形で大切にすべきねらいや価値として位置付けてきた。

総合的な学習において大切にしていけるべきねらいや価値

- 現実社会との出会いを通して「社会・文化とのかかわりを強める学び」
- 「自分のあり方を見つめる学び」を通して、「自分の生き方」に迫っていく学び
- 現実の課題に対して自分の有り様を決定していくことを通して、「学び方を学ぶこと」ができる学び

また、総合的な学習としてのテーマが単元の最初から最後まで流れていくという大前提を総合的な学習を計画し、進めていく上で位置付けたことは大きな意味がある。このことにより、教科の補充的な授業は総合的な学習として認められなくなり、発展的な学習においても単元としてのねらいが明確であり、単元全体を貫いていることが必要条件となっているのである。4つのモデルは考え出しましたが、今年度の実践を通してバリエーションを広げていこうと考えている。

#### 参考資料

- ・ 平成11年度研修のまとめ「研修の取り組み」
- ・ 平成12年度研修のまとめ「研修テーマ」
- ・ 平成13年度研修のしおり

## II. 総合的な学習の目標と内容

今年度も学年ごとに工夫した実践が展開された。ただ、現状においては学年による創意工夫であり、この総合的な学習で子どもたちにどんな力をつけたいのか、どんな力をつけようと考えてどのような展開をしているのか、魚崎小学校としてねらっているものは何かということを教師間で確認することができておらず、保護者に説明するだけのものを持ちえていないのである。

今、私たち現場の教師に求められていることは、「総合的な学習」を通して、子どもたちにどんな力を付けていくのかということを確認にすることである。

そして、各教科や道徳、特別活動についてはその目標や内容が指導要領としてはっきりと設定されているのに対して、総合的な学習においてはそれが各学校に委ねられているのである。つまり、総合的な学習における学習指導要領にあたるものを各学校で作らなければならないのである。

### 1. 魚崎小学校の総合的な学習の目標を設定するために

総合的な学習の目標づくりにあたり、次の三点からの検討を試みたい。

- ・ これまでに実践してきた総合的な学習における子どもの姿から、わたしたちが目指していきたい子ども像とは何かを探り、検討する。
  - ・ 学習指導要領の総合的な学習のねらいを受けて、昨年度本校で確認した総合的な学習において大切にしていくなきねらいや価値から検討する。
  - ・ 魚崎小学校や魚崎という地域の特性をもとにして検討する。
- ・ 過去の取り組みを学年ごとに見つめていく中で、目指したい子ども像に迫るキーワードとなる子どもの姿を探っていくこととする。
- ・ 3年生
    - ・ 子どもたちが課題を持ち、理解を深めていく追究の場面では、実物を見たり、触れたりする体験の場が有効であった。
    - ・ 子どもたちはお年寄りと自然にふれあうことができ、相手のことを思う気持ちを強めたり自分からお手紙を出すなどの行動に表したりすることができた。
    - ・ はっきりとした自分なりのテーマを設定すると、子どもたちはそれに沿った調べを進めていこうと努力することが出来た。
    - ・ 地域を素材として学習を展開していくことで、学習と生活を結びつけ、子どもたちは思考を連続させていくことができた。
  - ・ 4年生
    - ・ 身近な人やもの、出来事に対して子どもたちは自ら試行錯誤しながら調べを続け、解決を目指すことができた。
    - ・ 子どもたちはいろいろな方に話を聞いたり、資料をいただいたりして、自分た

ちで考えを作っていこうと努力することができた。

- ・障害をもつ人や外国の方などと積極的にコミュニケーションをとることができ、試行錯誤する中で学習を深めていこうとすることができた。

・5年生

- ・自分にとっての課題をはっきりと持って取り組むことができた。
- ・創意・工夫しながら問題を解決していくことができた。
- ・環境問題などについて子どもなりの創意・工夫した調査・実験を行い、調べを進めて自分の考えを持つことができた。
- ・伝えるべき日本らしさが見えないなど自分が置かれている状況に不安定さを感じ、自分の考えを問い直したり、その状況の中で葛藤したりする中で自分として伝えるべきものを生み出していくことができた。
- ・外国の方との交流や環境についての実験などを通して、自分の中にある偏っていたり、誤っていたりする見方や考え方などについて見つめ直す視点を持つことが出来た。

・6年生

- ・地球環境における問題点から自分の生活を見つめ、自分にできることを創意・工夫し、その実践から自分として導き出した結論や方向性を持つことができた。
- ・昔の生活を体験し、現代社会の生活と比較する中で見つけた問題点をもとに自分たちの生活を改善していくための提言を持つことができた。
- ・車椅子やアイマスクなどの体験を通して、共に生きるとは何かを考え、今の自分をふりかえったり、自分にとってできると考えられることを実践してみたりすることで、自分のあり方を探っていくことができた。

これまでの実践における子どもたちの姿を見つめていくと、3、4年生と5、6年生でその取り組み方の特徴や追究や思考面での深まり方に変化があるように感じられる。そこで、中学年と高学年に分けて、目指したい子ども像を考えていくこととする。

【中学年における子どもの姿から】

3年生や4年生では、実物に触れたり、体験をしたり、人と出会ったりして自分とのかかわりを持つことが大切である。自分とのかかわりを持つことで問題が見えてくるのであり、高学年のような身構えてしまうことがなく自然に相手や他のものとのかかわりを持つことができるという良さもあると考える。当然かかわりをもつには身近な地域における素材からの導入が必要であり、出会った課題に対して試行錯誤しながら自分なりに解決していくという点からも地域における素材からの導入は欠かせないだろう。さらに、ここでの学習が自分たちの生活と関連し、よりよい生活を作り出そうとする学びを展開していくことが求められているのではないだろうか。

以上のことから、この中学年で目指す子ども像を次のように考えてみた。

自分たちの地域における素材を起点として体験などのかかわりを多く持ちながら試行錯誤の追究を進め、自分たちからよりよい生活を作り出そうとする子ども

#### 【高学年における子どもの姿から】

5, 6年生では活動や体験を通して自分, 社会, 自然とのかかわりに関心を持ち, 自分なりに課題を見つけ出していくことが大切である。課題に対して活動や体験を通して解決の方向性を探りながら, 現実の自分たちの生活や行動とのギャップに目を向け, 自分が置かれている状況に不安定さを感じて自分を問い直したり, その状況をどう乗り越えるのかに葛藤したりしながら自分としての生き方や社会のあり方についての考えをつくり出していく学びを展開することが求められているのではないだろうか。

以上のことから、この高学年で目指す子ども像を次のように考えてみた。

自分や社会, 自然とのかかわりへの関心から自分なりの課題を見つけ, 活動や体験を通して解決への方向性を探ることで, 自分を問い直したり, 自分の置かれている状況に葛藤したりしながら自分としての生き方や社会のあり方についての考えを作り出していく子ども

・学習指導要領の総合的な学習のねらいから検討する。

子どもたちに「生きる力」を育むと言う観点から, 学習指導要領には「総合的な学習」のねらいが次のように設けられている。

- ①自ら課題を見つけ, 自ら学び, 自ら考え, 主体的に判断し, よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- ②学び方やものの考え方を身に付け, 問題の解決や探求活動に主体的, 創造的に取り組む態度を育て, 自己の生き方を考えることができるようにすること。

この学習指導要領におけるねらいや魚崎小学校の子どもたちの様子から, 昨年度本校において検討し, 確認してきた「総合的な学習において大切にしていけるべきねらいや価値」は次の三点である。

- 現実社会との出会いを通して、  
「社会・文化とのかかわりを強める学び」
- 自分のあり方を見つめる学びを通して、  
自分の生き方に迫っていく学び
- 現実の課題に対して自分の有り様を決定していくことを通して、  
学び方を学ぶことができる

この総合的な学習のねらいや価値をさらにその解説も含めて分析していくと、ここで述べていることは、次の4点であると考える。

- 身近な問題から現実社会の問題へとつながっていくような学びを展開すること
- 自分の生活をよりよくし、自分の生き方や社会のあり方を見つめ直していくような切実感のある学びであること
- 追究には様々な活動や体験を通しての出会いが必要であること
- 学びを自分から進んで取り組んでいく態度と力をつけること

・学校や地域の特性をもとにして検討する。

魚崎小学校の地域の特性としては、産業としての酒づくり、環境としての住吉川、甲南本通り商店街、旧景観地区？、にぎわいネットなどの住民からの活気あふれる取り組みなどが取り上げられるのではないだろうか。

魚崎という地域を素材とするとき、そこにある「もの」に焦点を当てていくよりも、そこで生活し、活躍している「ひと」にスポットライトを当てて見つめていくことで、魚崎のよさや魚崎を通して見える現実社会の姿などと出会うことが可能だと考える。

また、新校舎の建てかえ後の見学者の多さや50・プール改修工事への寄付など、魚崎小学校に対する地域の思いの強さ、それは地域と学校のつながりの強さを象徴していると考える。

これら三点において検討してきたことをもとにして、魚崎小学校における総合的な学習の目標について考えてみた。

- 身近な問題から現実社会にある課題を見つけ出し、主体的・創造的に追究していこうとする態度と学び方を育成し、自分の生き方や社会のあり方について考えることができる。

また、これまでに実践してきた総合的な学習における子どもの姿から中学年と高学

年でねらいに差が見られていたことを受け止め、発達段階における学年の特性ということ意識しながら中学年と高学年における具体的な目標を置くこととした。

#### 中学年の目標

様々な活動や体験を通して、自分とかかわりのある身近な生活の中にある課題に気づき、試行錯誤しながら取り組み、よりよい生活をつくり出そうとすることができる。

#### 高学年の目標

様々な活動や体験を通して、自分から現実社会にある課題を見つけ出し、創意・工夫しながら主体的に課題解決に取り組み、自分や社会の現実とのギャップに葛藤しながら自分としての解決の方向性を導き出すことで、自分としての生き方や社会のあり方について考えることができる。

## 2. 領域とその内容を設定するために

目標が決まれば、次に総合的な学習において検討すべきことはこの学習において、どんな領域のどんな内容を子どもたちに学ばせようと魚崎小学校では考えているのかということを確認にすることである。

これを明確にするために、目標を決定してきたときと同様に、次に示す3つの視点から検討してみることにした。

- ・ 目標を実現するための内容であること
  - ・ 学習指導要領に示された内容を参考にすること
  - ・ 今までの魚崎小学校の実践を参考にすること
- ・ 目標を実現するための内容であるとは…
- 目標と内容は常に一体であり、目標を実現するための内容であり、内容が達成されることで実現・変化していく目標である。
- 目標に「自分の生き方や社会のあり方について考える」とあるように、その学年にあった取り組み方で自分のことや社会のことについて考えることができるような内容を設定したいと考えた。
- また、中学年と高学年で目標が分かれているように、各領域ごとの内容においても中学年と高学年で違いを明らかにできるようにすべきだと考えた。

- ・学習指導要領に示された内容を参考にする

小学校学習指導要領 総則 第3節 第一章第3の3に次のように示されている。

各学校においては、2に示すねらいを踏まえ、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心にもとづく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行うものとする。

この中で示される3つの課題「横断的・総合的な課題」「児童の興味・関心にもとづく課題」「地域や学校の特色に応じた課題」のもとに、国際理解などの領域における内容を学習することを示唆しており、学校の実態に応じてその内容や課題さえも変更することが可能であることがこの内容からうかがえる。

この課題や領域について、国立教育政策研究所総括研究官奈須正裕さんは、次のように述べている。

学習指導要領で示されたいわゆる三つの課題、すなわち「例えば国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的・総合的な課題、児童（生徒）の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題」を参考にすることは望ましい。これら三つの課題はあくまでも例示であるから、とらわれなくてもよいし、現にそれが文部省公式見解であるが、同時にこれらを基盤にスコープについて考えるのが、正攻法で無理のないアプローチの一つであるのもたしかである。

実際、多くの先進校の様子を見ても、先のような手順で析出されたスコープが、結果的に三つの課題との対応関係を持つことは少なくない。それどころか、三つの課題は「全国の比較的多くの学校で実際に総合的な学習として行われている学習活動の実践例などを勘案して示したものである。（学習指導要領解説 総則編48頁）」

p40L左下4～右上15 平成13年3月1日発行

実際、日本全国の先進校の実践と評価のあり方を紹介する目的で作成された「総合的な学習の時間 実践事例集」（平成14年12月25日発行 国立教育政策研究所編 東洋館出版社）の中に紹介されている学校の取り組みの中にも、この三つの課題を参考にしているものが幾つも見受けられた。

本校においても、この三つの課題を参考にした内容づくりをしていくことができるのではないだろうか。

・今までの魚崎小学校の実践を参考にする…

先に述べた魚崎小学校のこれまでの実践から、三つの課題のどこに位置し、どんな領域にあてはまるのかということについて整理していくことにする。

学年	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
3	・むかしといま 魚崎 (生活)	・おとしよりか 福祉 (老い)	・魚崎たんけん 魚崎 (生活)	・魚崎町探検 魚崎 (生活) (公共施設) (伝統行事) ・人にやさしい 町づくり 福祉 (ボランティア)
4	・20世紀の魚 魚崎 (生活)	・神戸の環境問 環境 (生物) ・目の不自由な 福祉 (障害) ・話してみよう 国際理解 (言語)	・ものにふれ 環境 (生物) 福祉 (障害)	・住吉川を探ろう 環境 (自然) ・水の環境問題 環境 (自然) ・大好き魚崎 魚崎 (生活) (伝統行事)
5	・わが町の伝統 魚崎 (伝統)	・子ども環境サ 環境 (自然)	・外国から見た 国際理解 (文化・風習)	・名人, 達人から 情報 ・創り上げよう 健康 (食)
6	・LIFEわた 環境 (自然)	・昔へ, タイム 情報 (情報・生活)	・共に生きる 福祉 (障害)	・わたしらしき 成長 (自分の進路) ・卒業研究

3つの視点から魚崎小学校の総合的な学習の領域と内容を設定しようと検討してきました。学習指導要領で示す三つの課題を基にして、これまでの実践や学習指導要領に記載されている内容、目標を意識した内容などを付け足して考えてみることにした。例えば、自分のあり方を見つめていくことや平成14年度の6年生が実践した取り組みから考えて、「成長」という領域を考えてみたのである。

今年度はこうして位置付けておいて、次年度以降の実践を通しながら、加除修正していけばよいと考えている。

魚崎小学校の総合的な学習の領域と内容

課題	領域	中学年の内容	高学年の内容
横断的・総合的な課題	環境 生き物 自然 気候 資源 リサイクル	身近な環境に関心を持ち、そのよさや問題点に気づき自分たちの生活との関係から自分にできることを考え、よりよい環境に働きかけようとする。	地域や世界の環境に関心を持ち、現状や原因、環境を守るために活躍する人々の存在などを通して環境を重要性を認識し、自分にできる活動を継続して取り組もうとする。
	福祉 障害 お年より 施設 ボランティア	高齢者や障害者の存在に関心を持ち、その人たちが置かれている状況や願いに気づき、幸せな生活ができるために自分たちにできることを考え、実践しようとする。	高齢者や障害者の置かれている状況に関心を持ち、共に助け合っ生きていくことの大切さを認識し、福祉社会のあり方や自分のかかわり方について考え、自分にできることを実践しようとする。
	国際理解 外国文化 日本文化 言語 風俗・習慣	身近な国々の人や文化などに関心を持ち、自分の国の文化のよさに気づき、お互いの国のよさを大切にしながら仲良く交流していこうとする。	世界の国々の人や文化や歴史に関心を持ち、自分の国と似ている点や異なっている点を受け止め、お互いのよさを大切にしながら積極的な交流をすすめていこうとする。
	情報 情報と生活	身の回りの情報に関心を持ち、自分に必要な情報を収集・選択し、自分の生活に役立てるとともに、相手の思いや願いを受け止めながら、自ら情報を伝えようとする。	現実社会にある様々な情報に関心を持ち、目的に応じた情報を収集・選択・整理し、自分の生活や学習に生かすとともに、相手の願いや状況を考えながら責任のある情報を発信しようとする。

児童の興味・関心に基づく課題	健康 衣・食・住 生命	自分の健康に関心を持ち、自分の健康について見つめなおすとともに、望ましい健康的な生活のあり方について考え、実践していこうとする。	自分の命や心身の健康に関心を持ち、生きていくことの素晴らしさや生命の尊さを認識し、望ましい健康的な生活のあり方について考え、自分の生活を見つめなおし改善していこうとする。
	成長 進路 職業 自己	自分の成長に関心を持ち、それを支えてくれた人々の存在に気づき、その人に対する自分の気持ちや今後の成長のあり方について考え、よりよい成長に向けて意欲的に生活しようとする。	自分を見つめることで自分の成長や将来の職業に関心を持ち、様々な仕事の具体的な内容や自分の特性や能力に気づき、自分にあった進路や職業について考え、これからの生活に希望を抱いて意欲的な生活をしようとする。
	平和 人権 国際問題 社会問題	地震などの災害や身近な出来事が原因で引き起こした人権に関する問題などに関心を持ち、その人たちが置かれている状況や願いに気づき、解決に向けて自分にできることを実践しようとする。	海外の状況や現実社会にある人権に関する問題などに関心を持ち、現状や問題の原因を理解し、平和で安全な社会の必要性と日本としての役割について考え、自分にできることを実践しようとする。
	色地に城 応や じ学 た校 課の 題特	魚崎 伝統行事 公共施設 地域の生活	自分たちの町、魚崎の生活や文化に関心を持ち、その特徴やよさに気づき、自分も地域の一員として出来ることを考え、実践しようとする。

### 3. 総合的な学習の領域と内容を設定することについて

総合的な学習の内容を決めてしまうということに抵抗を感じる方がおられるだろう。学年の子どもによって扱う内容が変えられないことは問題だと言う意見をお持ちだと考える。反面、扱う内容が決まっていないと言うことは何をしたいのかが分からず困ってしまうという意見も出されてくるだろう。

ここで設定する内容とは、先の意見で取り上げたように単元まで決定するというわけではない。魚崎小学校のこの学年の子どもたちに対してどんな総合的な学習を用意していくのかということは、目の前にいる子どもたちの状況によって（詳しく言えば、子どもたちの状況をどのように教師が見ているのかということによって）変わってくるだろう。しかし、思いつきや学年ごとの考えだけですすめてもいいと言うものでもなく、学校としてこんな力をつけたいという目標・内容をはっきりと持っていなければならないのである。

算数科で学習指導要領に学年ごと（他教科では複数学年でまとめたものもあるが）にその一年間で指導すべき内容が記されているが、ここでいう内容とはそれにあたるものである。この内容を受けて、子どもたちの状況にあわせて領域を選び、中高学年の内容を意識しながら単元作りをしていくのである。

「必ず全ての領域を学ぶようにしよう」「中学年・高学年で必ず3つの課題を1回ずつは学習するようにしよう」「中学年、高学年で同じ領域については扱わないようにしよう」などということはみんなで話し合っただけで決めればよいと考える。

また、よく誤解されることとして、「子どもありき」という言葉を取り上げて子どもたちの状況によって決めていくのが総合的な学習であってこんな領域や内容を決めていくことは総合的な学習の趣旨に反していると言う考えを出されることがある。「子どもありき」という言葉の意味は、内容については学校としての意図的な計画があり、それを目指して教師が設定していくが、その領域においてどんな素材を用いてどのように子どもたちに学ばせていくかと言うことは目の前の子どもたちの状況によって工夫し、教師なり、学年なりのアレンジを加えていくべきものだということである。内容まで子どもありきでは、何を学ばせていくのか、どんな力をつけたいのかという教師や学校としての意図が存在しなくなってしまうのであり、そうならないためにもここに魚崎小学校としての総合的な学習の領域と内容を設定したのである。

本校で「住吉川を全学年で扱いたい」とか「3年で酒蔵、4年で住吉川、5年で～」というように素材を決めて、場合によっては領域までも決めて取り組むというような教科でいう教科書的なものが必要だという声に対しては、全体で話し合っただけで決定しなければならないだろう。本来国語や算数などの教科でも指導要領をもとに単元作りをしていくものである。総合的な学習で魚崎版教科書にあたるものを作ることの意味や必要性などについては慎重に検討したい。

### III. 総合的な学習における評価

## 1. 評価観点から評価規準の作成

総合的な学習の評価について、次のような流れで取り組んでいきたいと考えている。

- ① 領域とその内容を確認する。
- ② 評価観点を設定する。
- ③ 評価規準を設定する。
- ④ 単元における評価規準を設定する。
- ⑤ 評価計画を立てる ～ どの場面でどんなことから何を見るのか
- ⑥ 個人別の記録を残していく。

### ・領域とその内容を確認するとは？

魚崎小学校の子どもたちにつけたい力として、魚崎小学校における総合的な学習の目標や領域における内容を決定してきました。その実現を目指して取り組んでいくのが各単元における取り組みである。つまり、各単元における目標や評価規準にあたるものは、すべて先に述べてきた目標や内容に関連しているのであり、そのことは常に確認しておくべきである。

### ・評価観点を設定するって何？

総合的な学習の評価についての書籍を見ていくと、評価観点として各学校なりに工夫した観点がいくつも紹介されている。

例1：三田市立ゆりのき台小学校 「学びのポイント」

課題の見つけ方・追究の仕方

情報の求め方・まとめ方

コミュニケーション・伝え合いの仕方

例2：御所市立秋津小学校 「基本要素・能力」

表現力（自己表現・他者理解・相互交流）

情報活用力（情報を集め、使う力）

問題解決力（課題を見つけ、取り組む力）

自己評価力（学習をふりかえり、考える力）

その中で、本校では教課審答申の例示にもあるように、「教科との関連を明確にして」という評価観点の作り方を進めていきたいと考える。

「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」という4つの観点を  
用いて評価を進めていくのである。先に紹介した奈須正裕さんも講演や様々な書  
籍の中で次のように述べている。

「評価観点について一番多くの学校にとって無理がなく効果があるのは、  
教科と同じやり方だと思う」

(本年度の山口大学教育学部附属山口小学校研究発表会講演から)

さらに、評価観点について、「学校を変える教師の発想と実践」(奈須正裕著  
金子書房 2002年5月30日発行)で次のように述べている。

具体例として示されたもののうち、「学習活動への関心・意欲・態度」  
と「学習活動にかかわる技能・表現」はこの方法に合致しているが、残る  
「総合的な思考・判断」と「知識を応用し総合する力」は必ずしも適切と  
はいいがたい。特に後者は「知識・理解」ではなく「思考・判断」の一  
種であろう。したがって、具体的な観点項目としては、たとえば「生活  
実践課題に関わる知識・理解」「自己の生き方をめぐる思考・判断」とい  
った表現がこの方法に対し素直で、実際にも運用しやすいだろう。

魚崎小学校においても、この4つの観点を受けて考えていきたい。

- ・学習活動への関心・意欲・態度
- ・自己の生き方をめぐる思考・判断
- ・学習活動にかかわる技能・表現
- ・生活実践課題に関わる知識・理解

・評価規準を設定していこう！

次に取り組むべきことは、各領域ごとに4つの観点についての評価規準を作成して  
いくことである。総合的な学習が目標に準拠した評価を重視していくからには、各領  
域ごとの評価規準を設定し、それに基づいた評価をしていかねばなりません。

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
--	----------	-------	-------	-------

環 境	中学 年	身近な環境に関心を持ち、よりよい生活環境を目指して自分にできることを試しながら探っていこうとする。	身近な環境と自分の生活との結びつきに目を向け、これからよりよい生活をつくっていくためにできることについて考えることができる。	身近な環境から問題を見いだし、見学したり、環境を守るために活躍している人々の話を聞いたりして調べ、わかったことを工夫してまとめ、報告できる。	身近な環境のよさや問題点に気づき、環境を守るために人々が努力していることがわかる。
	高学 年	地域から地球規模までの環境に関心を持ち、環境を守るために必要なことを整理し、自分にできることを葛藤しながら継続して実践していこうとする。	地域から地球規模までの環境問題の原因と対策、そこに関わる人々の苦悩などから本当に自分にできることは何かを模索しながら、自分とのかかわりについて考えることができる。	地域から地球規模までの環境の現状から問題を導き出し、環境を守ろうとする世界の動きを調べたり、環境が破壊されていく原因や対策について実験を通して確認したりしてより効果的に発信できる。	地域や地球規模までの環境問題の現状や原因がわかると共に、環境を守るために関わる人々が努力と、そこで見つけ出された対策について分かる。
福 祉	中学 年	お年寄りや障害者の人々と積極的にふれあい、体験したことや学習したことを身近な福祉問題を解決するために生かそうとする。	お年寄りや障害者の人々の生活の様子に気づき、その人たちの気持ちや願いを考えながら、自分としてのかかわり方について考える事ができる。	お年寄りや障害者の人々の生活の様子から問題を見いだし、その人たちと交流したり調査したりして分かったことや感じたことを工夫してまとめ、発表することができる。	お年寄りや障害者の人々の生活の様子を知り、その人たちが抱えている気持ちや願いに気づく。
	高学 年	お年寄りや障害者の人々が置かれている状況に関心を持ち、地域のボランティア活動などを通してみんなが幸せに暮らせるために必要な活動について考え継続して実践していこうとする。	お年寄りや障害者の人々が置かれている社会の現状や問題点が分かり、これからの福祉社会のあり方と自分のかかわり方について考える事ができる。	お年寄りや障害者の人々が置かれている社会的な状況から問題を導き出し、直接お話を聞いたりボランティア活動に取り組んだりして、わかったことや感じたことを目的に応じてまとめ、発信できる。	お年寄りや障害者の人々が置かれている社会的な状況を知り、よりよい生活を求めて努力していることを知り、願いを実現を支える人々や関連機関の働きなど福祉社会のあり方や自分のかかわり方について考えることができる。
国 際 理 解	中学 年	身近な外国の生活や文化に関心を持ち、その国のよさを見つけながら、身近な外国の人と楽しく交流しようとする。	身近な外国の生活や文化の様子が具体的にわかり、そこからその国のよさについて考えることができる。	身近な外国の生活や文化から問題を見つけだし、身近な外国の人のお話を聞きながら追究し、その過程や結果を工夫して表現することができる。	身近な外国の生活や文化を具体的なものを通してとらえることができる。

国際理解	高学年	いろいろな国の生活、文化、歴史などに関心を持ち、お互いの国のよさを大切にしながら互いの国のことをもっとよく知るために積極的に交流を続けていこうとする。	いろいろな国の生活や文化、歴史などの特徴がわかり、その国の人々と自分たちがつなげる関係について考えることができる。	様々な国々の生活や文化、歴史などから問題を設定し、外国の人や帰国された人と交流したり、具体的な資料を活用したりしながら、その追究の過程や結果として得たものを目的にふさわしい方法で表現することができる。	いろいろな国々の生活や文化、歴史の特徴を日本との比較からとらえることができる。
	中学年	身の回りの情報に関心を持ち、必要な情報を収集し、自分の生活に役立てたり、自ら情報を送ったりしていこうとする。	必要な情報の収集方法がわかり、情報を活用したり送ったりするよさについて考えることができる。	身の回りの情報の収集の仕方から問題を見つけだし、様々な情報の収集の仕方を調べたり実際に試したりすることができる。	収集・選択した情報を、自分の生活に活用することが出来る。
情報	高学年	様々な情報に関心を持ち、目的に応じて情報を取捨選択し、メディアの特性を考えながら責任ある発信をする	目的に応じた情報の取捨選択や発信の方法がわかり、そのよさや責任の重さについて考えることができる。	様々な情報の取捨選択や発信の仕方から問題を設定し、実際に情報の取捨選択をし、受け手の気持ちを考えながら発信することができる。	受けての願いや状況などをふまえて、主体的に責任のある情報の発信ができる。
	中学年	自他の健康に関心を持ち、自分の健康について見つめなおすとともに健康的な生活をおくるため、進んで学習に取り組もうとする。	自分の毎日の生活と健康のかわりについて考え、健康な生活と自分の取り組みについて考えることができる。	自他の健康について正しく知るために、専門家の話を聞いたり、資料で調べたりして、わかったことをまとめ、報告できる。	自他の体について正しく理解し、健康な生活についての理解を深め、よりよい生活を送ることができる。
健康	高学年	自他のいのちのや心身の健康に関心を持ち、健康的な生活を実践するため、自分の生活を見つめなおし進んで学習に取り組もうとする。	自他の生命を尊重し、健康的な生活を実践するための今後の自分の取り組み方について考えることができる。	自他の体のつくりや心身の発達について正しく理解するために、自分たちが調べたことをグループで討議したり、全体へ発信したりすることができる。	自他の体のつくりや心身の発達について正しく理解し、健康で安全な生活について理解を深め、役立つ基礎的な知識を身に付けていくことができる。

成長	中学年	自分の成長とそれを支えてくれた人に関心を持ち、よりよい未来を旨として、意欲的に生活しようとする。	自分の成長を支えてくれた人々に対する自分の気持ちやこれからの成長のあり方について考えることができる。	自分のこれまでの成長に関して問題を見だし、これまでお世話になった方々から話や頼みを聞いたり、成長の足跡を表しているものを見たりして調べ、分かったことを工夫してまとめ、報告できる。	自分の成長とそれを支えてくれた人々の存在に気づき、多くの人の力によって今の自分があることがわかる。
	高学年	自分の成長の足跡を振り返り、将来の職業に関心を持ち、なりたい自分に向かって自己を高めていこうとする。	様々な仕事における働く人の喜びや苦勞をつかみ、自分自身にふりかえてみて、自分にあつた進路や職業を考える事ができる。	これまでの自分を振り返り、これからの自分の生き方について問題を導き出し、身近な人々や自分がなりたいと思っている職業について調べ、つかんだことをより効果的に発信できる。	様々な職業の具体的な内容や自分の特性や能力に気づき、自分の将来を考えていくことの大切さが分かる。
平和	中学年	身近な人権問題に関心を持ち、誰もが安心して暮らせる社会とはどのようなものかを考え、自分にできることを試しながら探していこうとする。	身近な生活の中に潜む人権問題に目を向け、誰もが安心して暮らせる社会とはどのようなものか、自分に出来ることは何かについて考えることができる。	身近な生活の中にひそむ人権問題を見だし、人権を守るために活躍している団体について調べたり、詳しい人に話を聞いたりして、分かったことを工夫してまとめ、報告できる。	身近な生活の中にひそむ人権問題に気づき、人権を守るために人々が努力していることがわかる。
	高学年	海外の情勢に関心を持ち、人々が人権を侵されることなく安心して暮らせる社会を守るために必要なことを整理し、自分に出来ることを模索しながら地球人としてあるべき姿を考えようとする。	現実社会にある人権問題の原因と対策、そこにかかわる人々の苦悩などから、平和で安全な社会の必要性と日本が世界の中で担っていくべき役割について考え、自分に出来ることは何かについて考えることができる。	現実社会にある人権に関する問題を導き出し、人権を守ろうとする世界の人々の動きや人権が侵害される原因・現状について調べ、分かったことをまとめて発信することができる。	海外の状況や現実社会にある人権に関する問題の現状や原因がわかると共に、人権を守るために活動している人々の努力や頼みを知り、自分にもできる取り組みは何かを知り、実践する。
魚崎	中学年	自分たちの町魚崎の生活や文化に関心を持ち、意欲的に調べることを通してそのよさを守り、受け継いでいく方法を考え、実践しようとする。	自分たちの町魚崎の文化や生活について自分のできることは何かを具体的な観察や資料を活用して考える事ができる。	魚崎の生活や文化の様子から問題を見だし、見学調査をしたりお話を聞いたりしてわかったことを工夫してまとめ、紹介できる。	自分たちの町魚崎の生活や文化の特徴やよさに気づき、いろいろな工夫がされていることがわかる。

魚 崎	高 学 年	自分たちの町魚崎の伝統や歴史、政治、産業などに関心をもち、意欲的に調べることを通して町を発展させるための方法を考え、発信・実践しようとする。	自分たちの町魚崎の伝統や歴史、政治、産業を守るとともに、これからのよりよい町のあり方と自分とのかかわり方について考える事ができる。	地域社会の一員として、魚崎の行事や活動への参加のあり方から、問題を設定し、地域の人々や友だちと話し合ったり、行事に積極的に実際に参加したりする。	自分たちの町魚崎の伝統や歴史、政治、産業の特徴に気づき、地域社会の現状や問題点がわかる。

### ・単元における評価規準づくり

各領域の評価規準を、単元の素材や活動などと重ね合わせていくことで、その単元における評価規準ができてきます。

### ・評価計画を立てるとは？

単元のどの場面で、どんなことについて、何を通して(使って)評価していくのかということをはっきりとさせておくことが大切です。単元構想の中に書き込んだり、評価だけの計画を作ったりして、授業にあたるものが共通して理解しておくことが大切です。

こうしておくことで、目標の実現へ向けての評価規準を明らかにし、無理のない評価が実現し、その評価から得たものを子どもたちに的確に返していくことができると思っています。

・・・については、次年度以降の実践を通しながらの取り組みとなりますが、できれば、今まで協力してつくり上げれば、次年度からの取り組みで修正したり、付け加えたりしてより子どもたちに近いものになっていくことと考えます。

## 2. 今後の取り組みについての見通し

さらに、技能・表現における学び方においては、各教科、道徳、特別活動とも関連させながらどんな学び方の力をどの学年でつけていくべきなのかということ魚崎小学校としての構想をつくっていきたいと考えています。さらに、その学び方におけるアドバイスとなる学び方のテキストのようなものを作成し、子どもたちに持たせていくということも検討したいと思っています。このことは、社会科においても活用できることであり、岐阜大学教授北俊夫さんも社会科においてこうした学び方ブックのようなものを持たせることは子どもたちが調べる学習を進めていく上で必要な指導であり、教師としての準備であると語っておられた。今年度、粗いものでもいいから設定し、それを各教科などで活用しながら書き込んでいって来年度を通して完成させていくという方向性を探りたい。ブックについては、各学年で使われたプリントなどを参考に、一年間をかけて作成していきたいと考えている。